



図書館通信

静岡大学附属図書館報 NO.174 2022.4

目次 ■巻頭言 ■令和3年度学長戦略運営経費による電子ブックの充実について ■コロナ禍でのモニター活動
■教員等著作寄贈図書一覧 ■図書館の動き

〈巻頭言〉

すべてについての何かを、
何かについてのすべてを



館長 坂本 健吉

新入生の皆さん、ようこそ静岡大学へ。

コロナ禍での不自由な状況もようやく先が見えてきたと思われた矢先、ロシア軍によるウクライナへの侵略がはじまり、世界はコロナ禍とは違った意味での混乱と転換の真っ最中にあります。私たちは否応なしにこの歴史的大事件の目撃者になってしまいました。かの地でいったい何が起きたのか、起きているのかを知るためには歴史や地理を知る必要があるでしょう。全世界が協調して行っているロシアへの経済制裁について理解するためには、世界の流通や貿易がどのように回っているのかについての知識が要ります。また、ウクライナは1986年に原子炉の事故としては最大級の爆発事故を起こしたチェルノブイリ原子力発電所があった国でもあります。ロシア軍がウクライナにある原子力発電所を攻撃し占拠した場合、いったい何が起こり得るのかについての

情報を持っていないと、要らぬパニックを起こす原因になるかもしれません。

もちろん、それら全てについて全員が高度な専門的な知識を持つことは出来ません。しかし、何事につけて考えて理解する上での根本として基礎的なことを知っておくことは、これから長い時間を生きていく皆さんにとって、たいへん重要なことだと思います。基礎もなく「ぼくがかんがえたさいきょうのりろん」を振り回しても、誰からも相手にされません。また、ちょっとした知識がなかったために誤った情報、ニセ科学・ニセ医学を真に受けて健康被害を受けたり、ネズミ講詐欺で金銭損害をこうむったり、さらには自らがデマの発信源になって加害者になることすらあるかもしれません。このように基礎的だけれど大切な幅広い知識を「教養」と言うことが出来るでしょう。

最近、日本の大学では「教養」という言葉を古くさいと考えたのか、そのかわりに「リベラル・アーツ、liberal arts」というカタカナ言葉を使うことが流行っています。しかし、幅広い知識という意味での「教養」が使われ出したのは大正時代だとされている一方、「リベラル・アーツ」はギリシア時代までさかのぼる概念なので、実は、「教養」のほうがよほど新しい言葉だったりします。この「リベラル・アーツ」を直訳すると「自由技巧」となって意味がよく分かりませんが、いろいろな束縛から自由になって何事が起きても自分なりの判断をするための知識を集め、思考方法を学ぶことだと解釈すると釈然とします。

何かを知った後と前では世界が全く違う新しい見え方をするというのは、よくあることです。19世紀末を生きた文学者、オスカー・ワイルドは

「自然は芸術を模倣する」という逆説的な言葉を残しています。自然の美を写し取る、真似をするのが芸術じゃないかと思うかもしれません。しかし、例えばゴッホの絵のようなヒマワリだとか、今日の日差しはルノアールの描いた景色を思わせるとか、台風の荒波が北斎の絵にある波頭に見えるとか、逆説的どころか我々が普通に感じることであったりします。画家の目を通して世界が広がり自由になった結果であり、こういった感興もリベラル・アーツといえそうです。もっとも、百人一首の「逢い見ての 後の心に くらぶれば 昔はものを 思はざりけり」という権中納言敦忠の歌は、知ってしまったために恋の束縛が強まってしまった、自由が無くなったといった心情なので、逆のこともないわけではありません。しかし、まあ恋心というものは仕方のないもので…

閑話休題（それはそうと）。「すべてについての何かを、そして何かについてのすべてを知るように努めなさい（Try to know something about everything and everything about something.）」、これは 19 世紀イギリスの哲学者・経済学者であるジョン・スチュアート・ミルが言ったとされる言葉です。前半の「すべてについての何か」が浅くても広い教養というものであり、後半の「何かについてのすべて」が専門分野の知識を指しています。19 世紀の昔から西欧でも日本でも高等教育の場ではこの両者を学ぶことになりませんが、順番としては教養を身につけた後で専門的な分野を修得して卒業することになります。

しかし、いったいどうやって自分の専門分野を決めるのでしょうか。新入生の皆さんは、自分もう学部・学科が決まったのだから、後はカリキュラムどおりに勉強すれば自然に何かの分野の専門家になれると思っている方が多いかもしれません。しかし、それぞれの学部・学科にも非常に多くの研究分野があります。教員一人一人が異なった分野の専門家です。例えば、私は理学部化学科の教授なので大きくいえば自然科学の研究者ですが、専門分野は有機化学、さらに細かな分類では有機ケイ素化合物の合成や物性解析が専門となります。この分野に絞れば世界でも専門家は数十人といったところでしょうし、どんな学問分野でもこんな風に細分化されています。

そんなに多くの分野の中からいったい何をどうやって選べば良いのか。人それぞれですが、なにを専門にするかは興味本位、少し古い言葉を使えば「面白ずく」で決めるのが一番ではないかと思えます。学問だけではなく多くのことについて

少しずつでも知識を深め、経験を重ねていく中で、特に興味を引くことに出会えたらしめたもの、それは人生の幸福というものです。自分が面白いと思うことを学ぶことは苦になりません。もちろん、企業側が「即戦力」を求めてくる場合もあるでしょうけれど、面白ずくで突き詰めていく作業は、すべての分野に通用する力になると思います。つまり「何かについてのすべて」を究めることは「すべてについての何か」に通じるのです。

この激動の時代にあっても皆さんの大学生活が実り多きものであることを！

「紙」が築いてきたもの



分館長 許山 秀樹

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。新たな世界に足を踏み出すに当たり、静岡大学を選んで進学されたことをここから歓迎します。静岡大学の図書館には数多くの有用な書籍が保存されており、本棚でみなさんの来館を待っていることでしょう。——例年、このような歓迎の辞を記述してきましたが、我々が研究するにあたって活用するものは必ずしも書架にある紙媒体の書籍だけではなくなってきました。PDF や電子資料などが登場し、電子ペーパー端末が普及し、研究のあり方も変容しつつあります。紙がなくなることは当面なさそうですが、不動の座を明け渡しつつあることは間違いありません。

本稿では、人類の歴史の中で大きな役割を果たしてくれた紙について、みなさんが高校で学んだ内容を踏まえて、その歴史を振り返っておきます。

紙を発明してその後の文明の発展を支えることになった人は誰でしょうか。みなさんが高校で使った世界史の教科書には、蔡倫（さい・りん）という人の名が記述されていますね。蔡倫は中国・後漢の 100 年頃に在世した宦官でした。静大図書館にも所蔵する『後漢書』（巻 78「宦者列伝」）

には、蔡倫の伝記があります。かつて文字を記録するものとして木簡・竹簡（ちくかん：竹の札）や帛書（はくしょ：絹の布）がありました。いまでも、名声を歴史の上に残すことを「名を竹帛に垂る」と言うことがあるのは、そういった書写材の歴史的事情を踏まえています。ただ、木簡・竹簡も帛書も重かったり高価だったりで実用には向きませんでした。そこに、紙が登場する機運が生まれます。『後漢書』には、以下のように言います——「倫乃造意、用樹膚・麻頭及敝布・魚網以為紙。」（蔡倫はそこで工夫をこらし、木の表皮や麻屑、ぼろぎれ、漁網を使って紙を作った）、と。ですが、蔡倫より200年も遡る遺物の中に紙が発見されて、蔡倫を製紙技術の発明者とは言えないことが近年の研究で明らかになっています。蔡倫は発明者ではなく、紙の改良者というべきかもしれません。

出土文物から判断して、蔡倫より100年以上も後まで木簡・竹簡が書写材として現役だったようであり、紙が頻繁に書写に使われるのは3世紀以降です。ただし、まだ文字情報は印刷ではなく筆写で伝えられました。優れた文学作品が登場したときに「洛陽の紙価を高める」ということがあるのは、そのころ、西晋・左思の「三都の賦」という名篇を読者がこぞって書き写して持ち帰った状況に由来しています。

紙は751年のタラス河畔の戦いを契機としてイスラム社会に伝わったとされます。東西の大帝国が交戦した世界史上でも重要なこの出来事は、現在のキルギス共和国タラスが舞台です。アッバース朝のイスラム帝国軍と中国唐軍との戦闘の結果、唐軍は敗退し、一部の兵士は捕虜として連行され、その中に製紙技術者がいたと世界史の教科書には書かれています。実際には、それ以前からイスラム社会に紙が広まり、活用されていたようです。製紙技術は少しずつ西進し、ヨーロッパには遅れて12世紀以降伝わりました。1450年ごろのグーテンベルクによる活版印刷の発明以降、紙は本格的にその能力を発揮していくこととなります。

製紙技術は日本にはすでに7世紀頃に伝わっていたようであり、ほどなくして各地で製紙が始まりました。日本の文化においても紙は不可欠の存在でした。紙を土台にして多くの文化が開花しました。また、鎌倉・室町時代の五山版の出版は、中世文化史上のみならず、その後の近世文化の隆盛にも大きな役割を果たしました。

書籍に関する学問を書誌学といいます。その分野を学ぶ者として、日本の文字文化を支えた和紙制作の地を訪ねたことがあります。具体的には、岐阜県美濃市、福井県越前市、埼玉県比企郡小川町に行きました（写真は福井県越前市）。いずれも「和紙の里」としていまもその技術が受け継がれています。その地に立つと、単に紙だけではなく、紙にまつわるさまざまな産業や文化がそこで生まれてきたことを実感します。必要な文献はデジタル世界で完結するとデジタルネイティブたる諸君は思っているかもしれませんが、それは一部に過ぎません。紙に記録されてきた長年の叡智は今でも重要な内容を持っています。新入生のみなさんは、得意とするデジタルコンテンツの活用のほかに、学問の基礎となる紙文献も十二分に利用する能力を持っていないければならないでしょう。みなさんの来館をお待ちしております。

（『後漢書』は静・書庫、訳注本所蔵なし。「三都の賦」は『新釈漢文大系』79-80所収で、静・開架、浜・書庫）



令和3年度 学長戦略運営経費による 電子ブックの充実について

学長戦略運営経費で、紀伊國屋書店の電子ブックサービスプラットフォーム KinoDen の試読・リクエストサービスを利用し、学生リクエストによる電子ブックの充実を図りました。図書館で選定した電子ブックも加え、計285冊の電子ブックを購入いたしました。

図書館ウェブサイトのお知らせに都度リストを掲載したほか、静岡大学附属図書館 OPAC から検索、利用できます。2月からは ProQuest Ebook Central、Maruzen ebook Library の試読・リクエストサービスを開始しております。ぜひご利用ください。

<コロナ禍でのモニター活動>

静岡本館で実施した活動

- ・モニター選書
- ・ビブリオバトル
- ・福袋企画
- ・モニター会議



モニター会議



福袋企画

今年度は10名の学生がモニターとして活動しました。ミーティングやモニター会議、ビブリオバトル等は、人と人との間隔を広く空ける、アクリル板を設置する、など、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に行い、対面で実施しました。

昨年度のモニター選書はオンラインで実施しましたが、今年度は市内の感染状況や大学の活動指針のレベルを考慮した上で、書店店頭での選書とオンラインの選書のどちらの方法でも参加できる形で行いました。モニター選書では計109冊の図書が選ばれ、学生モニター手作りのPOPとともに紹介したところ、多くの貸出があり好評でした。毎年恒例となった「福袋企画」も大変人気があり、学生モニターと図書館職員で用意した43個の福袋はすべて貸出されました。また、感染対策で来館を控えている学生が自宅からでもモニター選書や福袋で選ばれた図書を確認することができるよう、ブックログの「静岡本館学生モニターの本棚」(<https://booklog.jp/users/shilas>)に登録しました。

浜松分館で実施した活動

- ・七夕飾り
- ・モニター選書
- ・モニター交流会
- ・モニター会議



モニター交流会



七夕飾り

今年度は9名の学生がモニターとして活動しました。どの活動も新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に行い、時にはオンライン形式を取り入れて実施しました。

七夕飾りの笹は、モニター数名で電子工学研究所横の竹林から切り出しました。ギャラリーに飾られた笹には多くの短冊が結ばれ、季節感を楽しめるスペースとなっていました。

モニター選書は、市内の感染状況を考慮して前期と後期の2回に分けて実施しました。前期は図書リストを作成して選書を行い、後期は書店で選書を行いました。合計119冊の図書が選ばれ、書架への展示後は多くの利用者に貸出されています。

モニター交流会は、モニター同士で話をする機会がほしいという要望から、学生の発案・企画により進められました。会場にはアクリル板を設置し、一部の学生はオンラインで参加しました。司会進行を学生が務め、少人数のグループに分かれて互いにおすすめの本を紹介した後、全体に向けて発表を行いました。当日紹介された図書は企画担当の学生がとりまとめ、後日「推し本リスト」として共有しました。参加者からは「交流できて嬉しい」「また実施したい」等の感想がきかれ、コロナ禍における貴重な交流の機会となりました。

＜教員等著作寄贈図書一覧＞

この度は著作物をご恵贈いただき誠にありがとうございます。
図書館では学内出版物及び学内関係者が執筆した図書を収集しています。
今後も著作を刊行された際は是非ご恵贈くださいますようお願いいたします。
(寄贈図書一覧は著作者のお名前前の五十音順に配列しています)

- ◇赤田信一（教育学領域）
 - ・“育ち”の記憶を紐解く：わたしの成長を支えてくれるもの [ITSC 静岡学術出版事業部] <編著> 静・開架【371.4/A28/】
 - ・“育ち”の記憶を紐解く：わたしの成長を支えてくれるもの 2 [ITSC 静岡学術出版事業部] <編著> 静・開架【371.4/A28/2】
- ◇阿部圭一（名誉教授）
 - ・よくわかるデータリテラシー：データサイエンスの基本 [近代科学社] <著者> 静・開架, 浜・開架【417/A12】
- ◇伊東暁人（人文社会科学領域）
 - ・現代社会と企業 [学術図書出版社] <編著> 静・開架, 浜・開架【335.13/I89】
- ◇伊藤宏（名誉教授）
 - ・スポーツ教育学の手法：教え上手な指導者は知っている指導法の要点：スポーツ・体育教育の実践的な研究を40年間続けた筆者が発見・考案した画期的な教え上達法 [大岩体育スポーツ研究所] <著者> 静・開架【375.49/I89】
- ◇宇賀田栄次（融合・グローバル領域）
 - ・大学生として学ぶ自分らしさとキャリアデザイン [有斐閣] <編> 静・開架, 浜・開架【377.9/TA41】
- ◇宇都宮裕章（教育学領域）
 - ・ともに生きるために：ウェルフェア・リングイスティクスと生態学の視点からみることばの教育 [春風社] <執筆> 静・開架【807/089】
- ◇大野旭（人文社会科学領域）
 - ・モンゴルの仏教寺院：毛沢東とスターリンが創出した廃墟 [風響社] <編> 静・開架, 浜・開架【185.9/Y72】
 - ・滕海清將軍有關內蒙古人民革命黨講話集上冊 [新鋭文創] <主編者> 静・開架【222.6/Y72/T1】
 - ・滕海清將軍有關內蒙古人民革命黨講話集中冊 [新鋭文創] <主編者> 静・開架【222.6/Y72/T2】
 - ・滕海清將軍有關內蒙古人民革命黨講話集下冊 [新鋭文創] <主編者> 静・開架【222.6/Y72/T3】
 - ・有關內蒙古人民革命黨的政府文件和領導講話 上冊 [新鋭文創] <主編者> 静・開架【222.6/Y72/T4】
 - ・有關內蒙古人民革命黨的政府文件和領導講話 下冊 [新鋭文創] <主編者> 静・開架【222.6/Y72/T5】
 - ・控內蒙古人民革命黨歷史證據和社會動員上冊 [新鋭文創] <主編者> 静・開架【222.6/Y72/T6】
 - ・控內蒙古人民革命黨歷史證據和社會動員下冊 [新鋭文創] <主編者> 静・開架【222.6/Y72/T7】
- ・內蒙古土默特右旗被害者報告書 [新鋭文創] <主編者> 静・開架【222.6/Y72/T8】
- ・內蒙古軍區被害者和加害者紀錄 [新鋭文創] <主編者> 静・開架【222.6/Y72/T9】
- ・加害者に対する清算から被害状況をよむ [風響社] <編> 静・開架, 浜・開架【312.227/Y72/13】
- ◇貴田潔（人文社会科学領域）
 - ・中世武家領主の世界：現地と文献・モノから探る [勉誠出版] <執筆> 静・開架【210.4/TA84】
- ◇熊倉啓之（教育学領域）
 - ・中等教育における教科指導に必要な知識・技能等：静大 SPeC について [静岡大学大学院教育学研究科附属教科学研究開発センター] <発行者> 静・開架【375/SH94】
- ◇今野喜和人（名誉教授）
 - ・エドワード・ウォレン・クラークと明治の図書／日本／アメリカ [E・W・クラーク顕彰事業実行委員会] <執筆>【289.3/E25】
- ◇大宮康男（教育学領域）
 - ・みほとけのキセキ：遠州・三河の寺宝展：浜松市美術館開館五十周年・中日新聞東海本社四十周年 [みほとけ展実行委員会] <執筆> 静・開架, 浜・開架【718/SH37】
- ◇鈴木宏尚（人文社会科学領域）
 - ・平成の宰相たち：指導者一六人の肖像 [ミネルヴァ書房] <執筆> 静・開架【312.1/MI73】
- ◇立元雄治（工学領域）
 - ・トコトンやさしい乾燥技術の本 [日刊工業新聞社] <著者> 浜・開架【571.6/TA94】
- ◇南富鎮（人文社会科学領域）
 - ・張赫宙日本語文学選集：仁王洞時代 [作品社] <編> 静・開架【913.6/C33】
- ◇花方寿行（人文社会科学領域）
 - ・サイコマジック [国書刊行会] <訳> 静・開架【146.813/J58】
- ◇藤井基貴（教育学領域）
 - ・道德教育の理論と方法 [ミネルヴァ書房] <執筆> 静・開架【375.35/H38】
 - ・小学校教育用語辞典 [ミネルヴァ書房] <執筆> 静・開架【376.2/H95】
 - ・道德教育の変遷・展開・展望 [学文社] <執筆> 静・開架【371.6/SH62/1】
- ◇矢野敬一（教育学領域）
 - ・戦死者のゆくえ：語りと表象から [青弓社] <共著者> 浜・開架【210.7/KA95】
 - ・写真家・熊谷元一とメディアの時代：昭和の記録/記憶 [青弓社] <著者> 浜・開架【740.21/Y58】
- ◇山本崇記（人文社会科学領域）
 - ・民族教育に対する攻撃とたたかう：京都第一初級学校襲撃事件から10年：ヘイト被害回復と民族教育権をめぐる日本社会の現況

- から「朝鮮学校と民族教育の発展を目指す会」〈執筆〉 静・開架【316.81/C54】
- ・朝鮮学校支援の現在と未来：支援の「かたち」を再考する〔静岡大学山本崇記研究室〕〈編〉 静・開架【376.9/Y31】
 - ・部落問題への取り組み50年：京都と静岡〔静岡県人権・地域改善推進会〕〈執筆〉 静・開架【361.86/B91】
 - ・同和問題の解決のかたちを考える：部落差別解消推進法という時代の中で〔京都府人権啓発推進室〕〈執筆〉 静・開架【361.86/Y31】
 - ・差異の繋ぎ点：現代の差別を読み解く〔ハーベスト社〕〈編〉 静・開架【361.8/A42】
 - ・静岡県のエキスパートが語る「社会人のための人権講座」〔静岡県人権・地域改善推進会〕〈共著〉(板倉美奈子, 国京則幸, 黒川みどり, 根本猛, 山本崇記ほか) 静・開架【316.1/SH94】
 - ・いま、部落問題を語る：新たな出会いを求めて〔生活書院〕〈編〉 静・開架【361.86/Y31】
 - ・問いとしての部落問題研究：近現代日本の忌避・排除・包摂〔世界人権問題研究センター〕〈執筆〉 静・開架【361.86/SE22】
 - ・住民運動と行政権力のエスノグラフィ：差別と住民主体をめぐる「京都論」〔晃洋書房〕〈著者〉 静・開架【361.86/Y42】
 - ・ハンセン病療養所とまちづくり：「今」と「将来」の狭間で〔静岡大学山本崇記研究室〕〈発行者〉 静・開架【494.83/H29】
 - ・ヘイトスピーチによる被害実態調査と人間の尊厳の保障〔龍谷大学人権問題研究委員会〕〈執筆〉 静・開架【361.8/H51】
 - ・不和に就て：医療裁判×性同一性障害/身体×社会〔生活書院〕〈編〉 静・開架【498.12/Y31】
 - ・「異なり」の力学：マイノリティをめぐる研究と方法の実践的課題〔生活書院〕〈編〉 静・開架【361.6/Y31】
 - ・地域共生社会と隣保館に関する研究：静岡県隣保館調査報告書〔静岡大学山本崇記研究室〕〈編著〉 静・開架【361.86/Y31】

〈図書館の動き〉

- ・令和2年度第4回附属図書館委員会（メール審議）〈令和2年3月3日(水)～3月9日(火)〉
 - 審議事項
 1. 令和3年度第3回議事要旨について
 2. 令和3年度事業計画について
 3. 新内部質保証体制について
 - 報告事項
 1. 令和2年度事業報告について
 2. 令和2年度図書館利用セミナー等の年間実施報告について

3. 令和2年度附属図書館ギャラリー活動について
 4. 新型コロナウイルス感染症への図書館の対応について
 5. 「柴田周三名誉教授寄附金図書」の別置解消について
- ・令和3年度第1回附属図書館委員会（メール審議）〈令和3年4月15日(木)～4月20日(火)〉
 - 審議事項
 1. 令和2年度第4回議事要旨について
 2. 附属図書館関連委員会委員等の選出について
 3. その他 情報基盤センター運営委員会からの意見招請について
 - 報告事項
 1. 第三期中期目標期間における附属図書館の年度計画について
 2. 令和3年度事業計画について
 3. 学術リポジトリの登録状況について
 4. 新型コロナウイルス感染症に関する対応について
 5. 図書館通信、教員利用マニュアル、Newsletterの発行について
 - ・令和3年度第2回附属図書館委員会（メール審議）〈令和3年7月7日(水)～7月13日(火)〉
 - 審議事項
 1. 令和3年度第1回議事要旨について
 2. 令和2年度附属図書館経費決算について
 3. 令和3年度附属図書館経費予算について
 4. 令和3年度学生用図書購入費の配分について
 5. 図書の不用決定について
 - 報告事項
 1. 附属図書館利用状況について
 2. 学外から利用できる電子情報について
 3. その他 研究室備付け図書の点検について/図書館利用セミナーの在宅授業対応について
 - ・令和3年度第3回附属図書館委員会（ウェブ審議）〈令和3年12月14日(火) 9:00～10:00〉
 - 審議事項
 1. 令和3年度第2回議事要旨について
 2. 規則改正について
 3. 令和4年度附属図書館の開館日程について
 4. 学生用図書費による令和4年度のデータベース購入について
 5. 図書の不用決定について
 - 報告事項
 1. 令和3年度図書館利用セミナーの実施について
 2. その他 静岡本館アスベスト除去工事について/教育職員免許法施工規則改正に伴う教職課程における自己点検・評価の仕組みの整備について
 - ・令和3年度第4回附属図書館委員会（メール審議）〈令和3年12月22日(水)～12月24日(金)〉
 - 審議事項
 1. 静岡大学附属図書館運営の内部質保証に関する自己点検・評価要項の改正について

